

国民政府成る

昭和三年十月十日



首 部 梅 介 石
 行 政 院 長 譚 延 闓
 法 政 院 長 胡 漢 民
 司 法 院 長 羅 鑑 農
 考 試 院 長 戴 天 仇
 監 察 院 長 蔡 廷 幹

政 府 委 員
 蔣 介 石 譚 延 闓
 胡 漢 民 王 寵 惠
 戴 天 仇 蔡 元 培
 馮 玉 祥 孫 科
 陳 果 夫 伍 廷 幹
 李 宗 仁 楊 樹 莊
 閻 錫 山 李 濟 琛
 林 森 張 學 良

「曲りありに
 眼鼻が
 ついた
 様だ
 魂が
 はいら
 ちやく
 ちやく
 駄目だ



所得納稅者及稅額(一部子の推定)

昭和三年十月十五日

税金額	人数
十万円以上	三〇〇
五万円以上	一、七〇〇
一万円以上	二五、〇〇〇
五千円以上	四五、〇〇〇
三千円以上	六五、〇〇〇
千円以上	九〇、〇〇〇
五百円以上	一二五、〇〇〇
五百円以下	三九八、〇〇〇
合計	七五〇、〇〇〇



1403

ツッピン伯太西洋横断
昭和三年十月十五日

百十二時間
五四〇哩



1404

不純と失策

昭和三年十月二十日



愛深明三と小泉策太郎

策太郎
失策



原阿佐緒と石原純

純、純
らす

1406

薬が効き過ぎ(スポーツ選手得意)

昭和三年十月二十三日



1407

豫筭難

昭和三年十月二十六日





1408

大隈侯政海子乘出す日
昭和三年十月廿八日



1409

御大禮

昭和三年十二月十日



富豪

昭和三年十一月二十六日



岩崎 丈弼 五億	三井 井基 六千万	徳川 義親 二千五百万
三井 八郎右衛門 五億	三井 高遠 五千万	毛利 元昭 二千五百万
岩崎 小弥太 四億三千万	三井 高視 五千万	新田 長次郎 二千五百万
住吉 左三門 二億	安田 善馨 五千万	茂木 七郎右衛門 二千五百万
三井 元之助 一億七千万	安田 善吉 五千万	福田 政之助 二千百万
安田 善次郎 一億六千万	安田 善吉 五千万	西原 清三郎 二千万
岩崎 孝次郎 一億五千万	安田 善太郎 五千万	相馬 政平 二千万
三井 高精 一億五千万	堀 巖南次郎 五千万	山口 圭湖 二千万
大倉 喜七郎 一億五千万	山口 吉郎 五千万	奇 藤 善右衛門 二千万
古河 康之助 一億三千万	三井 高光 四千万	島 津 忠重 二千万
三井 高修 一億二千万	野村 權七 四千万	馬場 正治 二千万
岩崎 俊雄 一億	安田 善兵衛 三千五百万	風間 章 右三門 二千万
岩崎 恒雄 一億	伊藤 治郎 左三門 三千五百万	久原 房之助 二千万
岩崎 隆雄 一億	板谷 宮吉 三千万	山口 誠 右三門 二千万
岩崎 輝雄 一億	大橋 新水 三千万	北村 又左三門 二千万
中野 忠石 一億	和田 久左三門 三千万	廣田 惠三 二千万
三井 源右三門 二億	辰馬 善左三門 三千万	丸 村 幸左三門 一千五百万
三井 守之助 八千万	松平 頼房 三千万	麻生 太吉 一千四百万
安田 善四郎 八千万	寺田 甚右 或 三千万	田 谷 惣助 一千三百万
安田 新八 八千万	本間 光雄 三千万	外 二名 一千三百万
根津 嘉一郎 八千万	大川 平三郎 三千万	川 喜田 久右郎 一千二百万
鴻 善吉 右三門 七千万	貝島 榮四郎 三千万	滝 信 四郎 一千二百万
鍋島 直映 七千万	山内 豊景 三千万	小 安 川 敬一郎 一千二百万
前田 利為 七千万	前川 太郎 三千万	山 本 外 六名 一千一百万
服部 金太郎 七千万	岸 本 兼太郎 三千万	山 本 外 七名 七百万以上
安田 善五郎 六千万	岸 本 五兵衛 三千万	山 本 外 八名 五百万以上
安田 柳子 六千万	峯 島 茂 三千万	山 本 外 九名 三百万以上
川 崎 八右三門 二千五百万	徳川 頼貞 二千五百万	山 本 外 十名 二百万以上

誦教強盜
昭和三年十二月十二日



「左様
あり
おし
づかに



「犬をお飼ひふさい、
驚き強盗へ届け
ても駄目です、
犬におやかまし
左様あり



1412

東京市奉祝會(天皇行幸)
昭和三年十二月十三日



1413

世界の中心日本

昭和三年十一月十六日



世界の大都市

昭和三年十二月二十六日



都市		国名	調査年	人口
倫敦	英	一九二五	六六一六二二九	
紐約	米	一九二四	六〇一五五〇四	
伯林	独	一九二四	四〇二四一六五	
申鐵古	米	一九二四	二九四二六〇二	
巴里	仏	一九二六	二八七一四二九	
ダラスアイリス	北アムステルダム	一九二五	二三一〇四四一	
大阪	日	一九二五	二一一四八〇九	
モスクワ	露	一九二七	二〇一九四五二	
東京	日	一九二五	一九九五三〇三	
プラザデルリア	米	一九二〇	一九五一〇七六	
ロンドン	英	一九二三	一八六六一四七	
レンディングラード	露	一九二七	一六一六一一八	
上海	支	一九二二	一五〇〇〇〇〇	
漢口	支	一九二二	一四七四四〇〇	
北平	支	一九二二	一三〇〇〇〇〇	
甲谷池	印	一九二一	一二三二二四六	
ブダペスト	匈	一九二一	一一八四六一六	
孟買	印	一九二一	一一七五九一四	
リヂモンド子イロ	ブラジル	一九二〇	一一五七八七三	
カイロ	埃	一九二七	一〇五九八二四	
ハンブルグ	独	一九二五	一〇五三九八三	
クラスゴ	英	一九二一	一〇三四〇六九	

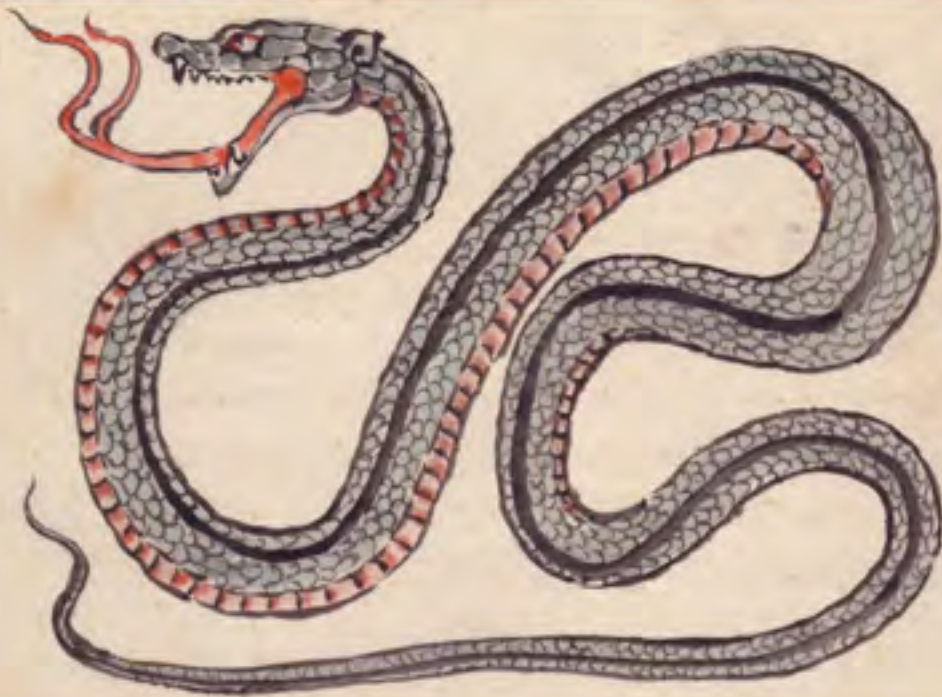
收穫

自昭和三年十月
至同十二月卅一日
昭和三年十二月三十一日



廣井 勇
遠山 椿吉
磯部 正春
廣津 柳浪
坂出 鳴海
中村 雄次郎
梨羽 時起
ラナンシング
スールバルトロ
伊藤 幸次郎
水島 鉄也
南部 球吾
岸 能武太郎
桂 落太郎
青藤 紀一
宇野 閑
ハルマツタカシ
山岡 順太郎
西郷 菊次郎
山中 笑
中川 竜三郎
櫻井 ちか子
山本 夷之助
高白 素之
小山内 薫
室井 馬琴





1417

昭和七年巳
昭和四年元日



床次竹次郎支那行

昭和四年一月五日

往



床
何やら
見えへる

帰



田
ドレじゃった？！

床
ドテモ面白かった
お土産も沢山
あるよ



1419

楊子雲廷殺さる

昭和四年一月十二日



張
逆賊思ひ知れ



楊
殺まとは
ヒドイ



1420

世界一の巨漢

昭和四年一月十九日



米国ミズーリ州
ミニアプル村産
ジャン・エーソン
身長八尺九寸
(実八七尺五寸位?)
体重六十三貫



五尺三寸の日本人
十四貫八百日

出羽ヶ岳

六尺六寸六分

四十五貫六



421

アフガン王退位(飛行機で)
昭和四年一月十九日



叛徒
討ち滅らし
たか



国王
三十六討
逃げるに如かず

1422

劍有聲

昭和四年一月二十日



423

強盗流行

昭和四年一月二十日

コレッホ子何だ



「今晚は
ど免ふ
さい」

「金を
貸して
貰いた
い」

「残らず出せ」

「静めして
下さいアゲ
おいですよ」

「南無三
しまつた」

「マダ有る
だらう」

「また来るぞ」

法 傷 殺

法 迫 脅

法 談 懇

強盜術の進歩

昭和四年一月廿日



明治時代



大正時代



昭和時代



1425

生活の不安

昭和四年一月二十日





(查詢會協行銀國米) 五十二齡年たし出り乘に會社實と々揚氣意け受を育教等高
奇部三庭森 士師學法) かる才化變に何如に迄る才達に才五十七が年青の人百の才



三十五才

相當を感ずる者……………十人
稍々裕福の者……………十人
生活の安定せる者……………四十人
漸く自給する者……………三十五人
死亡せる者……………五人



四十五才

相當財を擁する者……………四人
漸く自給生活の者……………六十五人
貧乏せる者……………十五人
死亡せる者……………十六人



五十五才

富める者……………一人
稍々裕福なる者……………三人
漸く自給生活の者……………四十六人
他の扶助による者……………三人
死亡せる者……………二十人



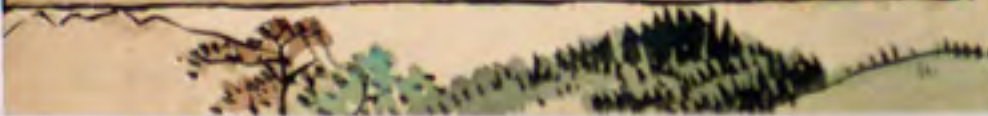
六十五才

富豪となれる者……………一人
稍々裕福の者……………三人
貧しくとも自活せる者……………六人
他の庇護により生活す……………五十四人
死亡せる者……………三十六人



七十五才

稍々餘裕ある者……………二人
生甲斐なき生活せる者……………三十五人
死亡せる者……………六十三人



昭和四年二月一日

櫻痴の
復讐禁止



甲
「復讐主義と
復讐思想は
いけぬい

乙
「心臣蔵などは
才一に林止だ。
神話や古代史の中
不都合なものがあ



蟹
「呆れた
奴だ



丙
「いっその日本歴史
全部林止がい

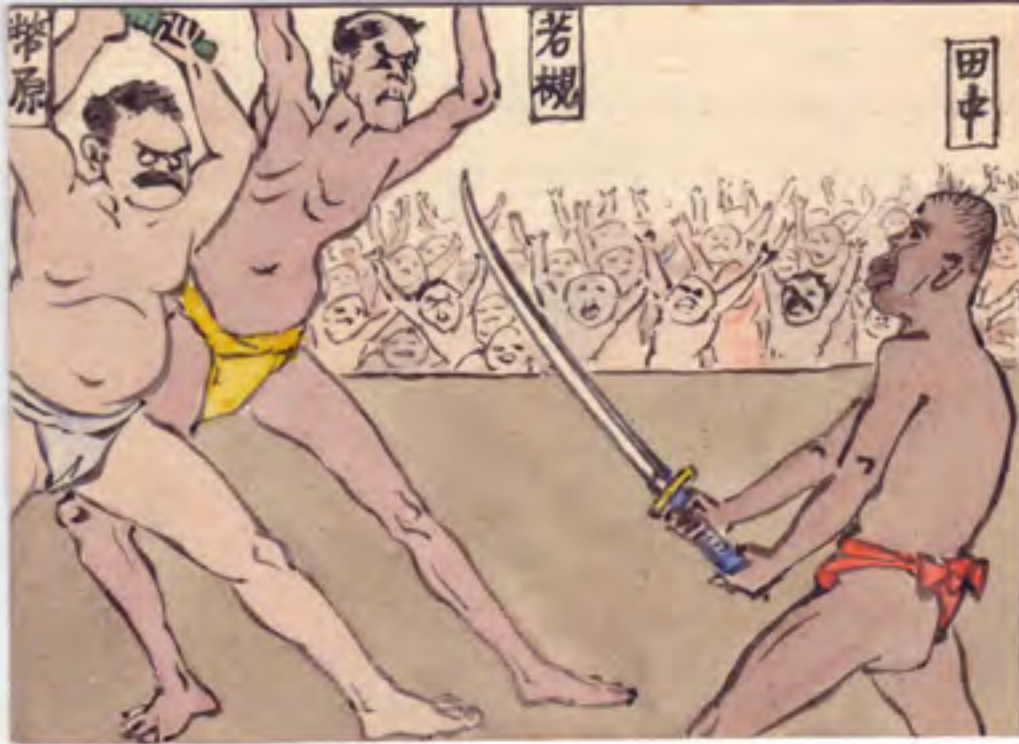
晴丸の試合
昭和四年二月二日
議會雜觀



田中

若槻

幣原



豊島ヶ岡(久遠宮邸参王葬儀)

昭和四年二月三日



此のコントラスト
彼のコントラスト
森のコントラスト
日本のコントラスト
世界のコントラスト

1430

西域探検畧表

昭和四年二月十日



年次	探検家	地方	成績
1890	Bower(英) 巽齋	庫車(龜茲)	樺皮梵文仙典ヲ発見
1893	Hornle(英) 譯者	庫車附近	直銘蒐集企圖地方ニ訓示
1898	Kremenz(露)	土魯番(高昌)	
1900 1901	Stein(英)	干闥	一部1902漢堡東洋學者大會ニ陳列目録
1901	Radloff(露)	—	万国中亚探検聯盟ヲ成立セシム
1902 1903	Grünwedel(露)	土魯番庫車	
1904 1905	Le Coq(露)	タリム北岸	古經及佛像彫像ヲ発見
1906 1908	Stein(英) 第二回	燉煌	洞内故事古画ヲ発見
1906	Pelliot(佛)	燉煌	壁画全部撮影
1902 1914	大谷光瑞師指導	タリム流域 (第一回 第二回)	
1909 1910	Oldenburg(露)		
1912	Le Coq(露) 第三回		
1913 1916	Stein(英) 第三回	新疆及ハミ地方	

全歐有史以来の寒さ

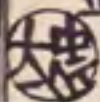
昭和四年二月十三日



1432

優詔問責案と説教強盗

昭和四年二月二十三日



貴院

叱り

置くぞ



田中

「アイタタ...
聞き置くぞ」



敬言官

「悪運が尽

きたんだ
神妙に自状

するんだぞ」

説教強盗

「お静かに

願ひます」



1433

議會通過難

昭和四年三月一日



1434

劫火と毒筆

昭
和
四
年
三
月
十
五
日

(伊東忠太の災難)



435

才五十八議會終る

昭和四年三月二十六日

消身創夷の田中首相



1436

收穫

自一月一日
至三月三十一日

昭和四年三月三十一日



久遠

次水要七
 江大慶
 楊于遷
 珍田捨巳
 原下謙民
 丹富雄吉
 永部一三
 服部雄吉
 宮邦彦王
 奥村壯義
 長井長義
 池田龍一
 立花小一郎
 村山敬二
 川面凡見
 沢田正三
 吉田彦吉
 松本剛吉
 山本宣治
 渡瀬庄三郎
 神保三郎
 本ツシユ
 井上良磨
 杉田定一
 吉川英華
 橋元正明
 畑仙蔵



各国人の平均餘命

昭和四年四月十七日



年齢	日本		英國		米國		獨逸		佛國		瑞典	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳	47.0	47.0	47.0	47.0	47.0	47.0	47.0	47.0	47.0	47.0	47.0	47.0
1歳	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5
2歳	48.0	48.0	48.0	48.0	48.0	48.0	48.0	48.0	48.0	48.0	48.0	48.0
3歳	48.5	48.5	48.5	48.5	48.5	48.5	48.5	48.5	48.5	48.5	48.5	48.5
4歳	49.0	49.0	49.0	49.0	49.0	49.0	49.0	49.0	49.0	49.0	49.0	49.0
5歳	49.5	49.5	49.5	49.5	49.5	49.5	49.5	49.5	49.5	49.5	49.5	49.5
6歳	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
7歳	50.5	50.5	50.5	50.5	50.5	50.5	50.5	50.5	50.5	50.5	50.5	50.5
8歳	51.0	51.0	51.0	51.0	51.0	51.0	51.0	51.0	51.0	51.0	51.0	51.0
9歳	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5
10歳	52.0	52.0	52.0	52.0	52.0	52.0	52.0	52.0	52.0	52.0	52.0	52.0

我が國民の平均余命

明治廿九年乃至明治卅一年平均 47.0歳
 明治卅二年乃至明治卅四年平均 47.5歳
 明治卅五年乃至明治卅七年平均 48.0歳
 明治卅八年乃至明治卅九年平均 48.5歳
 明治卅十年乃至明治卅二年平均 49.0歳
 明治卅三年乃至明治卅五年平均 49.5歳
 明治卅六年乃至明治卅八年平均 50.0歳
 明治卅九年乃至明治四十一年平均 50.5歳
 明治四十二年乃至明治四十四年平均 51.0歳
 明治四十五年乃至明治四十七年平均 51.5歳
 明治四十八年乃至明治五十年平均 52.0歳

1438

堀切善次郎市長とある
昭和四年四月二十六日



四十六才
堀切善次郎
至極適才
飛切善市長

1439

英帝日本天皇にガーター
勲章を奉呈す

昭和四年五月三日



1440

馮玉祥下野？
昭和四年五月廿九日



蔣
「スリヤ我に
味方致して
馮を伐つと
申さるるか

韓
「伐たぬでも
……ござ
らぬ……が

馮
「ハテ合点の
行かぬ……」

馮



蔣

韓



144

樺太大火

（對岸の火災）
（みありがす）
昭和四年五月三十日





448

樵の動かぬ田中内閣
昭和四年六月十日



不戦條約審議

昭和四年六月十七日



樞府

「まだそのつれ
申し居るが
やるまいぞ
やるまいぞ」

政府

「憲法違反
ではござらぬ
おゆるされい
おゆるされい
おゆるされい」



445

駒ヶ岳爆発

昭和四年六月十八日



1446

瓦斯値下げ問題

昭和四年六月二十日



東京市
当局
「篋棒に
臭い瓦斯だ」

「會社
敬馬いたか？」



1447

警視總監長岡隆一郎

昭和四年六月廿六日



閣下警視廳
是百鬼之巢
希借爾快腕
效氣暮一掃

收穫

自三月一日
至六月三十日

昭和四年六月三十日



小酒井不木
 池上四郎
 宮寄虎之助
 後藤新平
 上杉愼吉
 井上十吉
 村岡範為馳
 北條時敬
 水野直
 伊藤隼三
 寺島誠一郎
 川原茂輔
 樋口秀雄
 越尖大方三郎
 内田魯庵



田中内閣斃る

昭和四年七月一日

「た」かに
手巻へ!



1450

政治ゴッコ即憲政の常道

昭和四年七月二日



民政党内閣成る

昭和四年七月二日



1452

脚美渴仰流行 (一)

昭和四年七月十日



1458

脚美渴仰流行(二)

昭和四年七月十一日



1454

脚美湯仰流行(三)

昭和四年七月十二日





1455

妖婦怪装

昭和四年七月十六日



456

博士濫造

(昭和四年三月末日)

昭初四年七月廿日



合計	政治	商	經濟	獸醫	林	農	理	文	工	藥	醫	法	旧令	現行令	合計
二〇四六	—	—	—	二六	三九	一一四	一八二	一九六	三八七	三六	八四四	二二二			
二九四三	一	四	一四	五	五	九一	一三六	三四	一一六	二七	二四八一	二九			
四九八九	一	四	一四	三一	四四	二〇五	三一八	二三〇	五〇三	六三	三三二五	二五一			

1457

支露断交

昭和四年七月廿日



支
斬るぞ

露
放つぞ

1458

酷暑(東京九十七度)

昭和四年八月八日



太陽
「何でか」の
黒点のせい
よしある

熊
「ナンデモ
太陽の黒
点の為だよ」

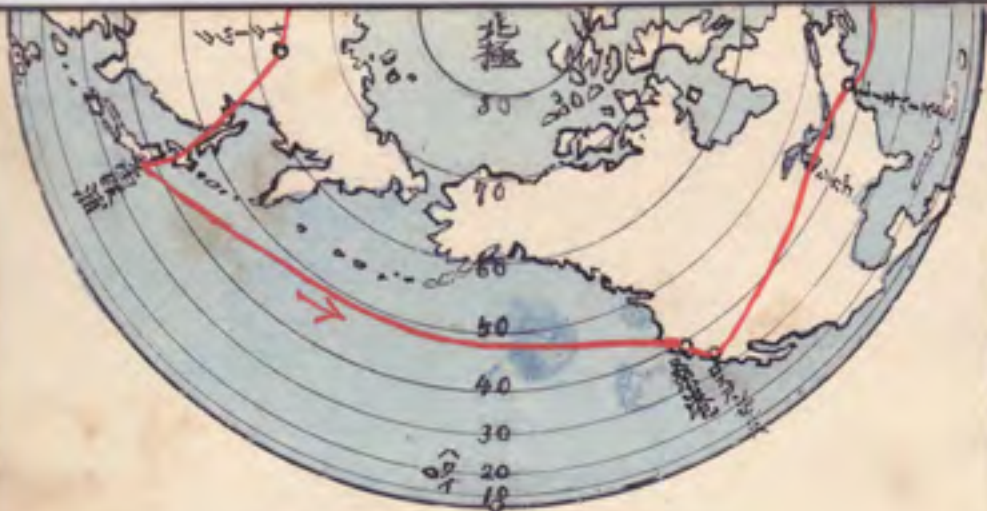
「ハ
馬鹿に
暑いじゃ
ホーカ



1460

ワッペリン伯世界一周
昭和四年八月二十九日
航空時間正味十二日半





1460

ツッペリン伯世界一周

昭和四年八月二十九日
(東京晴報正午五時半)



昭和四年九月一日



「そのサル又はナニダ
俺の禪を見ろ」

(民政)



「その越中はナニダ」

(政友)



1462

緊縮の二

昭和四年九月三日



「今日も
市飯があいよ」

「緊縮だ
仕方がチー」



「一
万円
の
ダイ
ヤが
いこ
こ」

「緊縮だ
五千
円
の
で
我
慢
し
ろ」





1488

勳章疑獄
昭和四年九月六日



1464

疑獄・疑獄・疑獄

昭和四年九月二十一日



モット堀ル

且那
イクラでも
出て来
ますぜ



1465

費目別本年度実行豫算
昭和四年九月二十二日



費目	費額
皇室費	四、五〇〇、〇〇〇
國債費	二八二、三八二、四八三
恩給	一三一、五一八、七〇九
年金	一一、五九六、六六一
行政費	六四六、六二四、四九一
補助費	一〇、八七六、四七一
陸軍費	二二〇、八七七、一八九
海軍費	二六〇、七九六、六八九
國庫豫備金	一四、〇〇〇、〇〇〇
合計	一、六八一〇、六〇、九三四

「八千万の人口に
割り当てると
一人前二十円
だか





射山崩小川涸
昨鉄相今鉄窓

1466

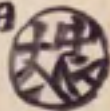
小川平吉獄に投ぜらる
昭和四年九月廿六日



1467

田中義一暴死

昭和四年九月廿九日



一敗塗地處
二賢遷來寇
三軍不可叱咤
四民不可問
五大寂滅去
六根始清淨

1468

收穫

昭和四年九月三十日



添田壽一
 中野彌六
 長谷金太郎
 藤田豊八
 笠井信一
 山崎直方
 伊東栄
 津田梅子
 村屋勝三郎
 辻衛
 箕浦勝人
 羽太銳治
 朽木綱貞
 小川一真
 波多壽承郎
 平山成信
 田中義一



1469

皇女降誕

昭和四年九月三十日



1470

伊勢神宮五十八回遷宮

昭和四年十月二日



「このかがみ
をみるごと
わきをみち
ごとくいつ
きたてま
つれ



471

黨争

昭和四年十月四日



1472

為体不明の怪

昭和四年十月五日



1473

政友総裁難

昭和四年十月六日



犬養

「俺

でふ

くは

収まるまい

末次

「矢ッパリ

俺だろう

鈴木

「俺が

出るかゆ知れん



474

犬養政友會總裁

昭和四年十月九日



木堂既に僕僮子非ず
犬養宜しく良犬を養ふべし



鈴木

犬養はエライ

床次

成る程、犬養はエライ



475

悲劇東京市財政難

昭和四年十月十日



市長

「このやりくりが

つかねば

身の破滅

あゝ

すまじき

ものは

市長

じや

わい



「あれ、
ととさん
が泣い
てごや

1476

軍縮會議全權

昭和四年十月十三日



1477

天皇陛下動物園行幸

昭和四年十月十五日



478

秋夜

昭和四年十月十五日



1478

官吏減俸

昭和四年十月十六日



浜口
是非に及
ばず一同俸
減らしを致
す御家の
御着と觀
念めされ

甲
ロクベテシ
ビヤて
コリヤ大變ふ
ことにあつた

丙
コレ御家老、
イヤサ浜口どの、
祿べらしとは
ソリヤ
理不尽、
と申
す中の



乙
是非もふい

1480

減俸取止め

昭和四年十月二十二日



浜口

減俸案は
取止めに致
してござる



丙
流石は
御家老
大出来
大出来



乙
有り難い

甲
それで
安心致し
ます

48

過猶不及

昭和四年十月二十六日





重なり合った万国會議
 昭和四年十月二十九日



1483

競走

昭和四年十月卅一日



1484

共産党八百二十五人檢舉
昭和四年十月六日



神社名	府縣	様式	高さ	柱間	柱徑	用材	年次	備考
平安神宮	京都	明神	80.6	60.0	12.0	鉄骨 鉄筋コンクリ	昭和4	
出雲大社	鳥取	〃	75.0	54.0	5.8	鉄筋コンクリ	大正4	
靖国神社	東京	神明	69.4	59.2	6.2	鉄骨 ブロンズ張	大正10	鉄64mm 鉄鋼58
巖島神社	廣島	西部	53.3	35.8	8.75 10.60	椽、楠	明治8	特建
明治神宮	東京	明神	39.6	30.0	4.0	台檜	大正9	
八坂神社	京都	〃	39.0	22.5	3.1	花崗石	正保3	特建
北野神社	〃	〃	37.6	27.0	3.1	〃	大正11	
気比神宮	福井	西部	35.0	25.24	3.24	檜	正保2	特建
榎原神宮	奈良	神明	31.0	25.0	3.0	台檜	大正4	

485

大鳥居(高さ三十尺以上)

昭和四年十月十日



1486

我國の國債

昭和四年十一月十四日



「証券を合せて六十億円以上
だ、ゴリヤ中々重い」



「利子大
け、三年
三億円
はつらい」

第一回	100,000	100,000
第二回	100,000	100,000
第三回	100,000	100,000
第四回	100,000	100,000
第五回	100,000	100,000
第六回	100,000	100,000
第七回	100,000	100,000
第八回	100,000	100,000
第九回	100,000	100,000
第十回	100,000	100,000
第十一回	100,000	100,000
第十二回	100,000	100,000
第十三回	100,000	100,000
第十四回	100,000	100,000
第十五回	100,000	100,000
第十六回	100,000	100,000
第十七回	100,000	100,000
第十八回	100,000	100,000
第十九回	100,000	100,000
第二十回	100,000	100,000
第二十一回	100,000	100,000
第二十二回	100,000	100,000
第二十三回	100,000	100,000
第二十四回	100,000	100,000
第二十五回	100,000	100,000
第二十六回	100,000	100,000
第二十七回	100,000	100,000
第二十八回	100,000	100,000
第二十九回	100,000	100,000
第三十回	100,000	100,000
第三十一回	100,000	100,000
第三十二回	100,000	100,000
第三十三回	100,000	100,000
第三十四回	100,000	100,000
第三十五回	100,000	100,000
第三十六回	100,000	100,000
第三十七回	100,000	100,000
第三十八回	100,000	100,000
第三十九回	100,000	100,000
第四十回	100,000	100,000
第四十一回	100,000	100,000
第四十二回	100,000	100,000
第四十三回	100,000	100,000
第四十四回	100,000	100,000
第四十五回	100,000	100,000
第四十六回	100,000	100,000
第四十七回	100,000	100,000
第四十八回	100,000	100,000
第四十九回	100,000	100,000
第五十回	100,000	100,000
第五十一回	100,000	100,000
第五十二回	100,000	100,000
第五十三回	100,000	100,000
第五十四回	100,000	100,000
第五十五回	100,000	100,000
第五十六回	100,000	100,000
第五十七回	100,000	100,000
第五十八回	100,000	100,000
第五十九回	100,000	100,000
第六十回	100,000	100,000
第六十一回	100,000	100,000
第六十二回	100,000	100,000
第六十三回	100,000	100,000
第六十四回	100,000	100,000
第六十五回	100,000	100,000
第六十六回	100,000	100,000
第六十七回	100,000	100,000
第六十八回	100,000	100,000
第六十九回	100,000	100,000
第七十回	100,000	100,000
第七十一回	100,000	100,000
第七十二回	100,000	100,000
第七十三回	100,000	100,000
第七十四回	100,000	100,000
第七十五回	100,000	100,000
第七十六回	100,000	100,000
第七十七回	100,000	100,000
第七十八回	100,000	100,000
第七十九回	100,000	100,000
第八十回	100,000	100,000
第八十一回	100,000	100,000
第八十二回	100,000	100,000
第八十三回	100,000	100,000
第八十四回	100,000	100,000
第八十五回	100,000	100,000
第八十六回	100,000	100,000
第八十七回	100,000	100,000
第八十八回	100,000	100,000
第八十九回	100,000	100,000
第九十回	100,000	100,000
第九十一回	100,000	100,000
第九十二回	100,000	100,000
第九十三回	100,000	100,000
第九十四回	100,000	100,000
第九十五回	100,000	100,000
第九十六回	100,000	100,000
第九十七回	100,000	100,000
第九十八回	100,000	100,000
第九十九回	100,000	100,000
第一百回	100,000	100,000

1487

人口十萬以上の内地都市
内地総人口六千二百九十三万

明和四年十月十九日



大	名	神	關	長	北	吳	小	關	野	堺	河	門
阪	都	戶	東	船	條	越	倉	西	州	山	津	司
二	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬
二	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千
百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬

1488

愛苦

昭和四年十月十六日



「坊や
一つお預
かり
だよ」

「おかあさんが
僕の團子
を一つ
とった」

親子之心
親子不知



1489

疑獄民政党に及ぶ

昭和四年十二月三日



1490

市電騒動(其一)

昭和四年十二月六日



従業員

「範棒め賞与

二割減に昇

級見合せだと

何を云つて

居やがるんだ

敬観總監

「騒ぐまいぞ、

よまに凶らい

つかわす程に

市長

「困つた

こと



市電騒動(其二)

昭和四年十二月七日



市長
「困った
こと
じゃ」



警視總監
「何を

電気
局長
「馬鹿
者めが

1492

可恐哉

昭和四年十二月十日



1493

大慈大悲

昭和四年十二月十三日

×



1494

天網恢々疎不漏

昭和四年十二月十八日



「神妙に
白狀めされ



山梨
「みじん
「覚への
あい
山梨



「覚へあいとは
言はさぬ証樓

1495

嘈々切々

昭和四年十二月十九日



「妓園娼舎の金の戀は、

曙曉

夢場

と響く

ふり、



1496

日暮途遠

昭和四年十二月二十九日



1497

昭和四年逝く

昭和四年十二月三十日



1498

收穫

自十月一日

昭和四年十二月三十日



桃川如燕
 以トレレセマン
 柳田清兵衛
 杉本道山
 高橋健自
 ベンハ作方之信守
 河野頼善
 村上壽精
 井上勝之助
 佐野藤次郎
 齊藤秀三郎
 三宅末吉
 岡田治衛武
 クレマシ
 岸上鎌吉
 白石村治
 佐分利貞男
 高橋義信
 加太邦憲
 青戸波江
 高木益太郎
 松平頼平
 岸田劉生
 野田彦彦
 吉田作次郎



1500

昭和庚午

昭和五年元旦

